

がん相談支援センターだより

第44号

令和7年12月発行

医師と患者である前に、人と人として ～信頼と対話で紡ぐ、東札幌病院の緩和ケア～

医師 須釜 佑介

「やさしさ」を基盤に地域を支える 東札幌病院の包括的な外来診療と緩和ケア

看護部 外来課長 鈴木 京子

放射線課について

放射線課 課長 今野 拓二

がん患者さまの「食」への想いに応える がん治療を食から支える取り組み

栄養課 管理栄養士 高橋 彩

医師と患者である前に、 人と人として

～信頼と対話で紡ぐ、東札幌病院の緩和ケア～

医師 須釜 佑介



——2025年7月に着任されましたが、東札幌病院の印象は？

実は私は以前にも当院に着任したことがあり、その当時から、とにかく患者さまに温かい病院であるということを実感しています。病院をあげて患者さまを受け入れるという意識が強く、なにより医療スタッフが皆、患者さまに対して無条件でやさしいんですね。当院で行っているがんの緩和ケアでは、さまざまな病状の患者さまから連絡をいただきますが、「がん相談支援センター」では、どんな内容でも相談を受け付けています。こういった雰囲気や姿勢は、一朝一夕に備わるものではなく、開業以来の積み重ねの賜物だと思います。

——東札幌病院が掲げる緩和ケアとはどのようなものですか。

一言で言うと全人的なケアということになると思います。これは緩和ケアに関わらず「医療の本質はやさしさにある」という当院の理念に基づくものです。この患者さまには「どのような緩和ケアを行なっていけばいいのか」と、私たちは考えるわけですが、その考えが一方通行にならないよう、患者さまとしっかりと話し合いをします。そして、それぞれの患者さまが、残された時間をどう過ごすのが一番なのかを一緒に考えます。ただ単に症状をとるといったことではなく、その患者さまが何を希望し、医療従事者としてそれにどう関わっていけるか、そんなことを毎日考えています。

——患者さま一人ひとり背景が違うなか、要望に向き合うのは大変そうですね。

正直大変な部分はありますね。緩和ケアでいらっしゃる患者さまのなかには、それまでの病院でいろいろな治療を行ったけれどもだめで、「見捨てられた」というような気持ちを抱いている方も少なくありません。その病院の先生も、最善を尽くしたうえで泣く泣く当院を紹介してきているはずですが、患者さまとしては鬱屈している場合があるんです。そこで大切にしているのが、まずは話を聞くということ。最初はこちらから何かを言うのではなく、まずその話に耳を傾ける。いま自分の置かれた状況を、その患者さまがどう思っている

のか。ポジティブに捉えている方もいれば、ネガティブに考えている方もいらっしゃいます。その方が何を考え、どのような方であるのかを、まずは把握することが大切なんです。そうしないとその後の関係を築くことができません。

——そのように患者さまと接するうえで、考えていることはなんですか？

患者さまと接する時、まずは人対人であるという意識を大切にしています。患者と医者ではなくて、人と人の関係性を築くことが第一歩なんです。医者、患者という立場で話をしていくのはその後のこと。その患者さまは何を望んでいるのか。もし望んでいることがわからないのであれば一緒に考えて、何をしたいのかを見つけていく。残された時間が短いなかで、その間で本人がなるべく「良かったな」と思えるよう、本当の気持ちを引き出すのが緩和ケアなのではないかなと思っています。

——自分自身の病気について、理解できないからこそその不安もありそうですね。

私たちは医学を学び、症例に触れることで疾患について知識がありますが、患者さまにとっては全てが初めてのこと。まずはそこを忘れないようにしています。病気や症状についてこちらから医学的な知見だけを述べてしまうと、患者さまは混乱してしまいます。そうではなく、今置かれている状況はどのようなもので、どんな選択肢があるのか、そして、どうなっていく可能性があるか、予想的なことも含めて患者さまと共有し、しっかりと理解してもらえるように丁寧に話をします。まずは患者さまにも、状況についてちゃんとわかってもらう。そして疑問でも心配や不安でも、なんでも言ってもらおう。医学的にはこうすることが最善という道筋があったとしても、それを知っていただいたうえで、それ以外の道も、患者さまが選べるようにと考えています。まずは信頼関係づくりからです。

——患者さまが、最終的に決定権をもつということですね。そうですね。ただ、患者さまに決定権はあるのですが、好き

にしてくださいと突き放すわけではありません。考えられる選択肢を示して、医師としての意見を伝え、患者さまからのご意見をいただいて、合意を得る。それが一番大事なことだと思います。この人になら任せられる。そう思ってもらえることが理想ですね。

——患者さまが決定すると言っても、緩和ケアにはあまり選択肢がないような・・・。

確かに緩和ケアと聞くと、もうあまりやることがなく、そこで行われるのは消極的な治療のみだと思われる方が多いかもしれませんが、治療歴などにもよりますが実際は単に症状をとるだけではなくて、さまざまな可能性が存在します。例えば症状を緩和するために、抗がん剤治療を行うということも私たちはやっています。治療はもうできませんと言われて当院に来院した患者さまでも、その方の背景や全身状態などをしっかり見たうえで、治療にもう一度トライしてみるということも、場合によってはあり得るのです。

——医師としても諦めない、患者さまにも諦めてほしくない。当院に来院した時点では、外出など全く無理な状態だと思われるでいて、患者さま本人もこのまま病院で亡くなるしかないと考えていたものが、コメディカルスタッフなどチームでケアを行うことにより、短時間なら外出もできるようになったといった例もあります。

——そうすると、家族の方にも喜ばれますよね。

その通りです。緩和ケアのもう一つの側面として、周りで支えてくれるご家族の存在があります。最期のお別れの時、（家族として）本人に対して十分に尽くしてあげられたという実感を持つことができ、後悔を残さないようにすることが大切なんですね。本人が希望しても、家族の事情で家に帰れない、緩和ケアが必要になったことへの理解が追いつかず、私たちに対する不信感が表れるということもあります。そんな時は、とにかくご家族と何度も何度も話をして根気強くご説明するんです。多くの場合は時間が解決してくれますが、そこまでの対応に“心”を込めています。当院は面会自由ですが、これは大きなメリットだと思います。ここで長い時間を患者さまと過ごすことで、ご家族も患者さまの様子や変化を自然に受け入れられるようになるんです。

——先ほど、コメディカルも含めてチームでケアをするというお話がありました。

東札幌病院では、チーム連携がとてよくとれていると思います。特に患者さまのちょっとした変化や気持ちの動きなどを共有することを大切にしています。例えば病棟でケアを行っている看護師は、主治医よりも患者さまに近い存在といえます。私は日々の患者さまの細やかなケアに関して、看護師を信頼し委ねています。患者さまが看護師に対して、医師には遠慮して言いづらかったことを打ち明けるということ

もありますし、それらを共有することにより、患者さまに対してよりの確な接し方ができていくんですね。同じようなことはその他のコメディカルスタッフにもいえますが、各医療従事者はそれぞれ患者さまに対してやさしさを持って接しているの、医師として特別に何かを指示するということはありません。

——一方で、チームとして意思決定しなければならないこともありますよね。

医師がトップに君臨するという昔ながらのスタイルではなく、医療従事者みんなで意思決定を行います。決定権はどうしても医師になりがちです。そのなかで私が意識しているのは、医学的に何が正しいかを常に考え、情報をアップデートすること。緩和ケアは、医学的側面よりも心情的、感情的に捉えられがちな傾向がありますが、医学的に何が最適か、という見解と判断はしっかり出すようにしています。同時に、みんなでも意思決定するという場面では、報告しやすい環境づくりを心がけています。患者さまについて気づいたことや提案などを、いつでも話しやすい、相談しやすいという雰囲気づくりのため、いつも上機嫌でいるということも自分の大切な役割だと思っています（笑）。

——東札幌病院は、バックベッド（後方支援病床）として厚い信頼を得ていますね。

在宅医療において病状が悪化したような場合のバックベッドとして地域のクリニックなどに登録いただいておりますが、「絶対に断らない」というのが当院の姿勢です。入院が必要と判断されるのであればいつでも来てくださいというスタンスで、当院の存在意義だと考えています。

——先生が考える、緩和ケアの理想像とは？

当院は特にがんの緩和ケアを中心に行っていますが、病気がなかった頃のように過ごせれば、それが一番いいなと思います。がんが進行するとやがて命は尽きてしまうわけですが、その日までやりたいことをやって、元気でいてもらいたい。理想像とも言えますが、シンプルにそこを目指していきたいですね。繰り返しになりますが、患者さまということではなく、人として関わり、どんなふう生きてきたのかを理解し、どんな希望があるのかをお話することが、私の日常の仕事。決して、他の先生方と違うことをしているわけではありません。

——最後に、東札幌病院の利用者の皆さまにメッセージをどうぞ。

急性期病院でいろいろ治療して、あとは緩和ケアと言われたとしても、決してそれで終わりではありません。そこから命は続いていきますし、残された時間が短かったとしても、自分らしく過ごせるように私たちが最大限サポートいたします。信頼してお任せいただけると嬉しいですね。

「やさしさ」を基盤に地域を支える

東札幌病院の包括的な外来診療と緩和ケア

看護部 外来課長 鈴木 京子

東札幌病院外来は「医療の本質はやさしさにある」という理念を基盤とし、緩和ケアを中心に一般診療領域まで地域に根ざした包括的な外来機能を提供しています。一般内科・外科をはじめ、化学療法、口腔外科、内視鏡、放射線診療など幅広い症例に対応できる体制を整えています。近隣施設からご紹介いただいた急性外科疾患に対し保存的治療や手術に対応し急性期から在宅支援まで切れ目のない医療を目指しています。内視鏡領域では、苦痛の少ない経鼻内視鏡にも対応し、高齢者や嘔吐反射の強い患者の負担軽減に努めています。また、胆道閉塞や通過障害に対するステント留置やイレウス管挿入など緩和的内視鏡治療も行い、症状緩和とQOL向上を目指しています。放射線治療では根治照射だけでなく、外来通院で疼痛や出血に対する緩和照射にも対応しこれらの処置や治療は日常生活の維持につながり在宅療養の継続に貢献しています。

外来看護師は「PatientからPersonへの挑戦～患者さんの自由度を拡大しよう～」という看護部の理念を胸に思いやりと信頼を大切に看護実践し、患者さま、ご家族の皆さまが安心して通える外来づくりに取り組んでいます。診察前の問診で、患者さまやご家族の思いを丁寧にくみ取り、多職種間で共有後、診察することで患者、家族も情報共有が出来る安

心感やご家族の信頼につながるように努めています。がん薬物療法看護認定看護師は薬剤師外来と協働し、副作用管理や生活調整について継続的に支援しています。また、がん性疼痛看護認定看護師も在籍し、痛みや身体的・心理的苦痛を有する患者さまに対して専門的な知識と技術を生かし、苦痛の軽減と生活の質の向上に繋げています。地域連携室とも密に連携し、他医療機関との紹介・逆紹介、初診の患者さまの受け入れ調整、当院での対応が難しい高度医療への橋渡しなど円滑な医療連携を図っています。

緩和ケアを専門とする病院としての特性を活かしバックベッド体制も整備しながら、地域全体で支え合う医療を推進しています。健康診断や人間ドックも実施しており健康診断の結果は当日発行も可能です。予防接種に対応し、地域の皆さまの健康維持を支える予防医療にも力を入れています。待ち時間短縮と利便性向上のためWEB問診を導入し、今後は画像WEB予約システムも導入する予定です。外来は地域医療と患者さまの窓口です。今後も、紹介しやすく相談しやすい外来機能の強化に努めていきます。“やさしさ”を軸に、地域に根ざした安心と信頼の外来をこれからも目指してまいります。



- 1 外来スタッフ
- 2 内科外来の様子
- 3 口腔外科外来の様子
- 4 上部消化管内視鏡検査の様子

放射線課について

放射線課課長 今野 拓二

放射線科は診療放射線技師9名(マンモグラフィ認定技師4名)、受付1名(事務)10名のスタッフで画像検査・放射線治療業務を行っています。様々な高精度検査機器を備え診療を支援しています。

画像検査・放射線治療は当院の患者さまはもとより近隣の医療機関の患者さまにも受診されています。今後とも当院患者さまや地域の皆さまにご利用いただけるよう、技術の向上、知識の習得に励み業務に努めていきたいと思ひます。外部医療機関からの画像検査・放射線治療の依頼案内を当院HPに掲載しておりますので、依頼の際にご利用ください。

■年度別検査件数 2021年-2024年

検査名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
CT検査	4438件	4373件	4517件	4582件
MRI検査	1437件	1587件	1317件	1332件
RI検査	810件	842件	741件	669件
MMG検査	833件	759件	882件	1139件



CT検査 機器：Canon AquilionPrime SP 80列マルチスライスCT

多検出器により短時間での撮影を可能としています。一般的な全身検査の他、腹部血管、ミエロCT、整形領域の撮影等を行っています。また富士フイルム製ワークステーションVINCENTを用いて3D画像処理等しています。



MRI検査 機器：PHILIPS Achieva 1.5T

DWIBS : PETのような撮影ができます。
MRA : 造影剤を使用せずに血管や脊髄腔の描出ができます。
MRミエロ：各種疾患の診断・治療効果の判定を行う上で有意な画像検査です。



RI検査 機器：GE Discovery D630

検出器の感度向上により検査時間の短縮、また画像再構成法により画質の向上に寄与しています。さらに画像診断支援ソフトBONENAVIを用いて病態を数値化して経年的な変化の観察を行うことができます。



乳房撮影検査 機器：GE Senographe

マンモグラフィー・サンデー※に賛同施設として登録しているほかがん二次検診も受け付けており、乳がん検診の促進に取り組んでいます。 ※マンモグラフィー・サンデーとは：仕事、子育て、介護などで平日にマンモグラフィー検査（乳がん検診）を受けにくい女性のために、毎年10月第3日曜日に全国の医療機関と認定NPO法人J.POSHが協力して実施する取り組みです。

がん患者さまの「食」への想いに応える がん治療を 食から支える取り組み

栄養課 管理栄養士 高橋 彩

当院の病院食の一例



富良野風
オムカレー

栄養課には6名の管理栄養士が在籍し、通常の食事提供のほかに治療や病状の進行により食事が思うようにできない患者さまに対し、個別対応を中心とした栄養サポートをおこなっております。がん治療を進めていくうえで、栄養状態を維持・向上することも治療の一環です。適切な栄養摂取は、体力を維持し、本来の生理的な免疫力を向上させ、感染症への抵抗性を高める役割があります。がん治療における手術や化学療法、放射線治療に伴い、十分な経口摂取が困難になることがあります。口内炎や味覚異常、嘔気、下痢、便秘など食欲不振になる症状はさまざまです。このような副作用症状をもつ患者さまが少しでも食べやすい食事内容となるよう個別調整や食事の工夫をおこなっております。

食事の工夫／具体例

● 食欲がないとき

食欲不振の原因は、がんそのものによる原因のほか、治療による副作用や精神的ストレスなどさまざまです。身体と心の調子にあわせて無理をせず、食べたいものを食べられる量をとることから考えていきます。十分な水分摂取も重要です。

栄養と食事のポイント

- ▶ さっぱりしたもの、のど越しの良い食品を無理せず食べられる量だけ、少量を食べてみる
(例) お粥、そうめん、プリン



● 味覚異常

味覚は日々変わることがあり、臭いに敏感になることもあります。味覚の変化や症状に合わせて味を調整しましょう。

栄養と食事のポイント

- ▶ 塩味が濃い、金属味を感じる：食前にレモン水やフルーツジュースで味覚を刺激。塩味は控えめに。だしの風味、香りを利用。
- ▶ 味を感じない：しっかりと味が付いたものを選ぶ。食事の温度を人肌程度にする。
- ▶ 甘みが強い：塩味を少し濃くする。甘味を控える。酢、スパイスを活用。



● 嘔気があるとき

症状がある時は無理せず、食べられそうなときに少しずつ食べましょう。匂いを抑えることも効果的です。

栄養と食事のポイント

- ▶ 強い匂いの物をさける、熱いものは冷ます
(例) パン、シリアル、冷茶漬け、果物



● 口内炎

熱いものや硬いもの、刺激のあるものを避けましょう。また、口腔内を清潔に保ち、こまめな水分補給で乾燥を防ぐことも大切です。

栄養と食事のポイント

- ▶ 酸味、濃い塩味、香辛料など刺激物を避ける
柔らかいもの、薄味のもの、とろみのある物を選ぶ
(例) 卵豆腐、ゼリー

● 下痢・便秘

生活リズムの変化や、薬の影響、腸などの消化管の粘膜が障害されることで引き起こされます。

栄養と食事のポイント

- ▶ 下痢：水分をこまめにとり、消化の良いものを食べる
(例) 電解質含有飲料
脂質の多い物や不溶性食物繊維の大量摂取は避ける
- ▶ 便秘：食物繊維や乳酸菌が含まれる食材を摂取する
(例) 野菜スープ、ヨーグルト



患者さまのご紹介

受診・検査・入院予約について

当院では、他医療機関からのご紹介による患者受診受付を、がん相談支援センター地域連携室で承っております。

直通ダイヤル

TEL 011-817-5120 FAX 011-817-5130

予約・予約変更の電話受付時間 月曜～金曜 9:00～17:00 / 土曜 9:00～12:00

■ ご紹介の流れ

一般外来受診希望者のご紹介

セカンドオピニオン外来、
病をよく識る外来(病理相談)を除く

1 ご紹介元医療機関が 電話またはFAXを送信



【診療予約(一般外来)申込票Word]、診療
情報提供書(処方内容含む)にて予約日時、
患者受診科を決定します

2 東札幌病院地域連携室が ご紹介元医療機関にFAX



●東札幌病院受診予約票

3 ご紹介元医療機関が 患者さまへ予約票をお渡し



●予約票

4 ご紹介元医療機関からの 診療情報提供書、画像など



●本人持参または地域連携室へ事前に郵送

5 患者さまが予約日時に 外来受診



●保険証 ●診療情報管理提供書
●予約票 などを持参

緩和ケア目的での入院、 外来通院希望者のご紹介

1 ご紹介元医療機関が 電話にてご連絡



電話にて相談

2 ご紹介元医療機関が 当院へFAX送信



●診療情報提供書のコピー
●患者情報用紙または看護添書のコピー
●保険証のコピー

3 東札幌病院地域連携室が 受診日、転院日を調整



●東札幌病院受診予約票

4 ご紹介元医療機関からの 診療情報提供書、画像など



●本人持参または地域連携室へ事前に郵送

5 患者さまが予約日時に 外来受診・転院



●診療情報提供書(処方内容含む)
●患者情報用紙または看護添書
●検査画像(直近のもの)
●採血データ ●保険証

※診療予約(一般外来)申込票、外来問診票、外科(肛門科)問診票、外科(乳腺)問診票、
外来(歯科・歯科口腔外科)問診票は、当院ホームページよりダウンロードできます。

〈各種申込票・予約票・問診票ダウンロード〉

<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

※外来問診票は、「患者の受診のみ」もしくは「患者と家族が受診」する場合は患者用の外来
問診票を、「家族のみ受診」する場合は家族用の外来問診票をご持参ください。※入院・転院
患者情報用紙、外来問診票(患者用・家族用)は当院ホームページでダウンロードできます。

<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel>

※保険診療となります。診断群分類包括制度(DPC)の場合など、医事課あての連絡文書
をお願いします。

関連施設のご紹介

厚別老人保健施設 ディ・グリュエーン

〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-5580 FAX 011-898-6760

訪問看護ステーション 東札幌

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2600 FAX 011-812-2605

訪問看護ステーション みずほ

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目12番28号
長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5855 FAX 011-807-5157

指定居宅介護支援事業所 東札幌

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2500 FAX 011-812-2533

指定居宅介護支援事業所

ディ・グリュエーン

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目
12番28号 長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5156 FAX 011-807-5157

札幌市白石区

第2地域包括支援センター

〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番25
(株)シヴァビル 5階
TEL 011-837-6800 FAX 011-837-6801

介護予防センターもみじ台

〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-8660 FAX 011-898-6760

医療法人東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2311 FAX 011-823-9552

<https://www.hsh.or.jp>

がん相談支援センター
TEL 011-817-5120(直通)
FAX 011-817-5130

発行責任者:医療法人東札幌病院 がん相談支援センター
編集責任者:病院長 日下部俊朗

